

白神山地への入り込み客のアンケート調査結果のまとめ

森林総合研究所東北支所 大石康彦

1 はじめに

白神山地は、ブナ原生林を主体とする自然生態系が広範囲に保たれていることから、平成2年に「森林生態系保護地域」に指定され、さらに平成5年には「世界遺産(自然遺産)」として登録されました。これに伴い社会的関心が高まり、同地域周辺への来訪者も急増しているものとみられます。このような事象は、我が国にかつて例をみないものであり、同地域の自然生態系が社会に及ぼす効果・影響の解明・評価が求められるところです。同地域における来訪者の動態解明は、そのために欠くことのできないものであり、また、我が国で初めて登録された世界遺産を、将来にわたり適正に管理していくために必要な基礎情報を与えるものです。

2 研究の方法

森林生態系保護地域及びその周辺地域において来訪者が主に訪れる11か所(図-1、秋田営林局管内:2か所、青森営林局管内:9か所)を対象に、アンケート調査と、来訪者数のカウント調査を実施しました。調査は夏季の休日として平成8年8月11日(日)、同平日として8月12日(月)、秋季の休日として10月20日(日)の計3日間、いずれも8:30~16:30の間、調査地点において帰途につく来訪者を対象に実施しました。

アンケートは「森林・白神山地について:3項目」、「今回の訪問について:9項目」、「回答者自身について:5項目」の17項目で構成し、対面法により回答を求めました。カウント調査では年齢等を問わず調査地点において下車するなど何らかの行為を行った来訪者の数を計測しました。

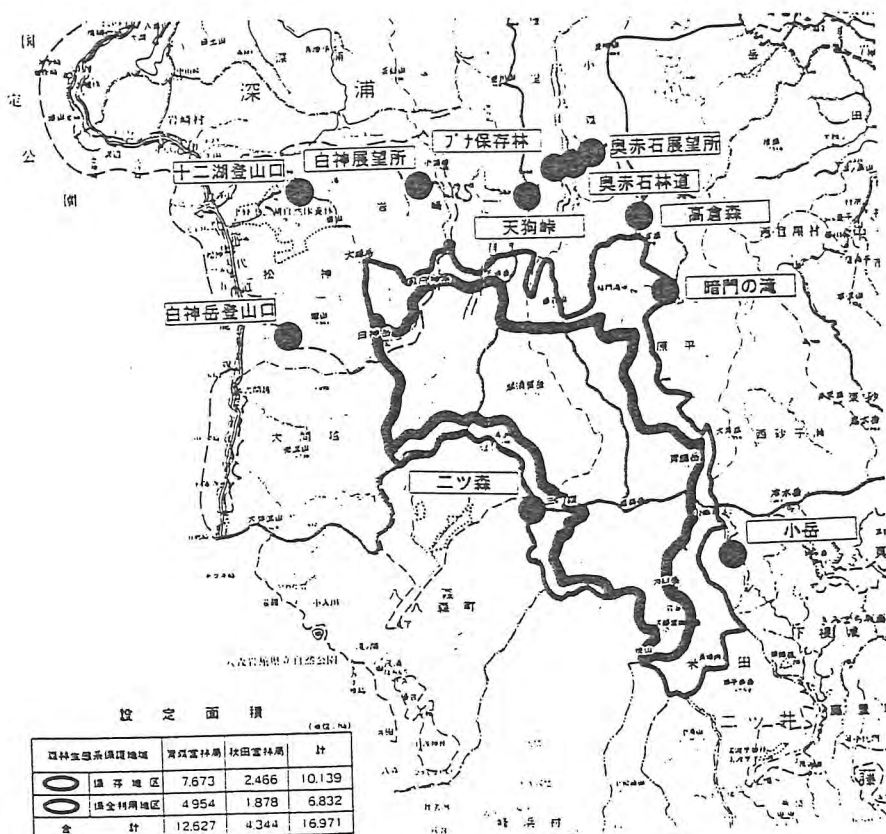


図-1 調査地点位置図

3 研究の結果

(1) 来訪者数

来訪者数は、全体で8月11日 1,030人、8月12日 487人、10月20日 771人でした。この内、秋田営林局管内2か所への来訪者は、8月11日 97人(9%)、8月12日 41人(8%)、10月20日 46人(6%)であり、全体の1割弱を占めました。箇所別では<暗門の滝入口>への来訪者が236~525人と最も多く、全体の48~54%を占めました。この他比較的来訪者が多かったのは、<奥赤石展望所>の90~105人(10~18%)、<白神展望所>の33~92人(5~12%)、<白神岳登山口>の48~61人(6~10%)でした。秋田営林局管内の<ニツ森>では39~91人(6~9%)、<小岳>では2~6人と少数にとどまりました(表-1)。

(2) アンケート調査結果

アンケート調査の有効回答数は、8月11日 491部、8月12日 274部、10月20日 386部でした(表-1)。アンケートの回収率は、全来訪者数に対して48~56%となりました。以下秋田営林局管内において回答数が多かった<ニツ森>を中心にアンケートの主な項目について集計した結果を述べます。

ア. 森林・白神山地について

(ア) 森林を訪れた回数

調査時の来訪を含めてこの1年間に森林を訪れた回数を聞いた項目です。<ニツ森>では、1回及び2~3回を合わせると、6割強に達しています。<ニツ森>への来訪者は、その多くがふだんあまり森林を訪れることのない者が過半を占めていることとなります(図-2)。

(イ) 白神山地を訪れた回数

調査時の来訪を含めてこれまでに白神山地を訪れた回数を

表-1 アンケート調査・カウント調査の結果

調査地点	8月11日(日)		8月12日(月)		10月20日(日)	
	アンケート有効回答	来訪者数	アンケート有効回答	来訪者数	アンケート有効回答	来訪者数
<青森局管内>						
①暗門の滝	284	525	151	236	210	420
②高倉森	1	46	2	5	0	0
③奥赤石展望所	58	105	30	90	35	100
④奥赤石林道	9	48	0	13	10	19
⑤ブナ保存林	0	48	7	8	3	10
⑥天狗峠	13	26	3	3	10	14
⑦白神展望所	18	52	21	33	32	92
⑧十二湖登山口	20	22	7	8	10	22
⑨白神岳登山口	56	61	38	50	30	48
青森局管内小計	459	933	259	446	340	725
<秋田局管内>						
⑩ニツ森	26	91	14	39	43	43
⑪小岳	6	6	1	2	3	3
秋田局管内小計	32	97	15	41	46	46
合計	491	1030	274	487	386	771

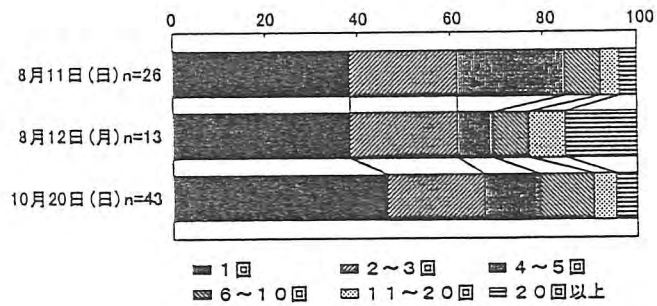


図-2 この1年間に森林に行った回数(ニツ森)

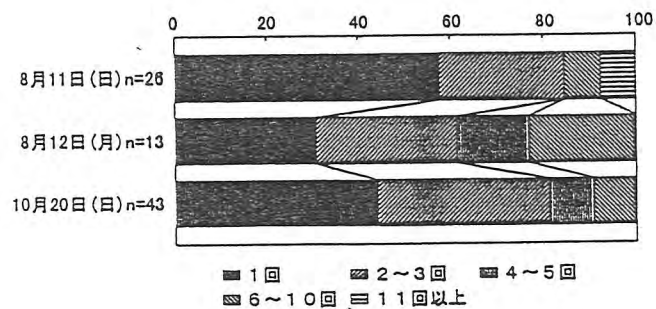


図-3 これまでに白神山地を訪れた回数(ニツ森)

聞いた項目です。＜ニツ森＞では、3～6割を1回の者（＝初めて訪れた者）が占めています（図-3）。平日（8月12日）には、6～10回の者が2割強を占めるなど、休日（8月11日、10月20日）に比較して白神山地を繰り返し訪れている者の比率が高くなっています。

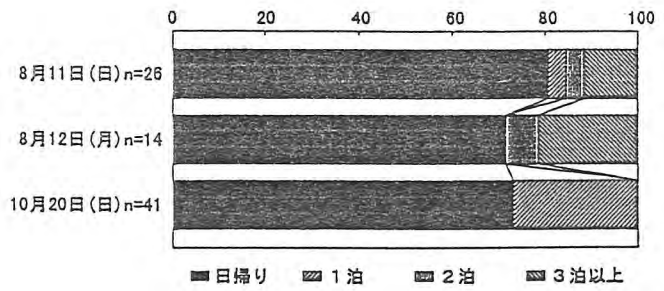


図-4 来訪の日程 (ニツ森)

イ. 今回の訪問について

(ア) 来訪の日程

来訪の日程の予定について聞いた項目です。＜ニツ森＞では、日帰りの者が7～8割を占めました。夏季にみられた3泊以上の者が秋季にはみられなかったことが特徴といえます（図-4）。

(イ) 調査地点以外への訪問

調査地点以外の箇所への訪問について聞いた項目です。回答を求めた項目は「津軽沢歩道」、「くろくまの滝」、「自然観察館ハロー白神」、「十二湖・日本キャニオン」、「真瀬岳」、「ぶなっこランド」、「素波里湖」、「駒ヶ岳＝藤駒岳・田苗代・岳岱・くるみ台・太良峡」の8か所及び「その他」です。＜ニツ森＞における回答には「ぶなっこランド」及び「十二湖・日本キャニオン」が比較的多くみられました。秋季には「素波里湖」及び「藤駒岳・岳岱他」も比較的多くみられました。また一部に「暗門の滝」など青森方面への訪問も見られました（表-2）。

表-2-1 調査地点以外への訪問 (平成8年8月11日)

訪問先	踏門の滝	地								ニツ森	小森	合計
		高倉森	奥赤石展望所	奥赤石柱道	ア+保存林	天狗峠	白神展望所	十二湖登山口	白神登山口			
踏門の滝	0	0	18	3	0	0	0	0	0	0	0	35
高倉森	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
津軽沢歩道	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
奥赤石展望所	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
奥赤石柱道	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
ア+保存林	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
くろくまの滝	4	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	74
ハロー白神	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
天狗峠	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
白神展望所	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
十二湖登山口	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45
十二湖・日本キャニオン	70	0	0	0	0	10	4	13	15	0	0	137
白神登山口	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
真瀬岳	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
ニツ森	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
ぶなっこランド	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
小森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
素波里湖	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
藤駒岳・岳岱他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
計	231	2	109	24	0	33	23	25	84	15	5	527
地域外	18	0	8	3	0	0	2	4	8	0	1	40
合計	247	2	109	29	0	33	25	29	72	15	8	587

表-2-2 調査地点以外への訪問 (平成8年8月12日)

訪問先	踏門の滝	地								ニツ森	小森	合計
		高倉森	奥赤石展望所	奥赤石柱道	ア+保存林	天狗峠	白神展望所	十二湖登山口	白神登山口			
踏門の滝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
高倉森	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
津軽沢歩道	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
奥赤石展望所	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
奥赤石柱道	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
ア+保存林	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
くろくまの滝	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
ハロー白神	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
天狗峠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
白神展望所	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
十二湖登山口	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
十二湖・日本キャニオン	49	0	0	0	0	0	12	2	14	0	0	87
白神登山口	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
真瀬岳	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ニツ森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ぶなっこランド	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
小森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
素波里湖	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
藤駒岳・岳岱他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
計	104	4	34	0	8	4	35	9	28	38	1	281
地域外	21	0	7	0	1	1	1	3	12	2	0	47
合計	125	4	41	0	9	5	36	12	38	38	1	308

表-2-3 調査地点以外への訪問(1996年10月20日)

	飛門の滝	高倉滝	白神石炭貯所	白神石炭道	ブナ保存林	天狗峠	白神蔵	白神蔵貯所	十二湖登山口	白神岳登山口	ニツ森	小森	合計
訪	17	0	18	0	0	0	0	0	0	0	7	0	41
先	19	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	23
間	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
先	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46
間	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
先	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
間	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82
先	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
間	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
先	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
間	28	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66
先	18	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	146
間	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
先	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
間	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
先	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
先	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
間	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54
合計	333	0	90	24	0	19	84	22	31	115	5	763	
地域外	19	0	1	1	0	0	0	0	0	4	7	0	28
合計	348	0	91	25	0	19	84	22	35	122	5	791	

(ウ)交通手段

使用した交通機関について聞いた項目です。<ニツ森>では自家用車の使用が圧倒的多数を占めました。特に秋季にはすべて自家用車を使用しての来訪でした(図-5)。

(エ)来訪の目的

白神山地への来訪の目的について「白神山地(世界遺産)をみるため」、「ブナ林を歩くため」、「動植物・自然を観察するため」、「おいしい空気・静けさを求めて(森林浴)」、「写真撮影・絵をかため」、「山菜・きのこ等を採りに」、「釣りをするため」、「登山をするため」、「観光旅行で」、「その他」から主なもの2つを選択させた項目です。<ニツ森>では、「白神山地(世界遺産)をみるため」が圧倒的に多く、次いで「ブナ林を歩くため」や「おいしい空気・静けさを求めて(森林浴)」が多くあげられました。また、「動植物・自然を観察するため」は夏季に多くあげられ、「登山をするため」、「観光旅行で」は秋季に多くあげられる特徴がみられました(表-3)。

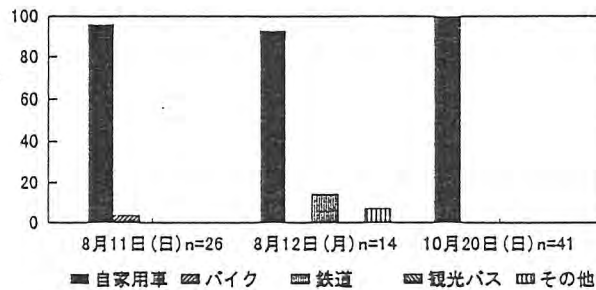


図-5 来訪の交通手段(ニツ森)

表-3 来訪の目的(ニツ森)

	8月11日(日)n=26	8月12日(月)n=14	10月20日(日)n=43
白神山地	65.4	85.7	88.4
ブナ林	15.4	21.4	32.6
自然観察	15.4	21.4	2.3
森林浴	38.5	14.3	16.3
写真・絵	11.5	0.0	9.3
山菜・きのこ	0.0	0.0	0.0
釣り	0.0	0.0	0.0
登山	11.5	7.1	16.3
観光	3.8	7.1	11.6
その他	3.8	21.4	4.7

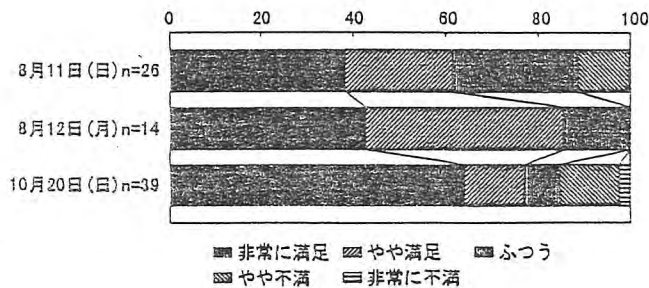


図-6 来訪の感想(ニツ森)

(オ) 来訪の感想

来訪の感想について「非常に満足」から「非常に不満足」まで5段階で聞いた項目です。＜ニツ森＞では「非常に満足」が、夏季には4割前後、秋季には6割に達し、「やや満足」までを含めると、満足側の評価が6～8割を占めました(図-6)。

(カ) 再来訪の希望

再び白神山地を訪れる希望について「ぜひ来たい」から「もう来たくない」まで4段階で聞いた項目です。＜ニツ森＞では「ぜひ来たい」が6割前後を占め、「機会があれば来たい」を加え、全員が再び訪れることを希望しました(図-7)。

ウ. 回答者自身

(ア) 居住地

回答者の居住地について聞いた項目です。＜ニツ森＞では、秋田県居住者が過半を占めました。特に秋季には秋田県居住者が9割に達しました。夏季には関東地方居住者が2～4割を占めたのに対して、秋季には関東地方居住者はみられませんでした(図-8)。

(イ) 居住環境

回答者の居住地の環境について「市街地」、「都市近郊」、「農村」、「沿岸」、「山間」の各項目から選択させた項目です。＜ニツ森＞では、「市街地」が6割前後を占め、「都市近郊」を加えると8割前後を占めました。「農村」居住者の割合が夏季に比較的少なく、秋季には比較的多くみられたことが特徴でした(図-9)。

4 考察

調査結果から、白神山地への来訪者は全体の約半数が暗門の滝に集中し、秋田側のニツ森、小岳は1割程度を占めることがわかりました。またニツ森への来訪者は、ぶなっこランドや十二湖方面に重複して訪問する例が多いことが明らかとなりました。ぶなっこランドはニツ森への経路上に存在しており、往復の途上で立ち寄っていることがうかがわれました。また十二湖については、

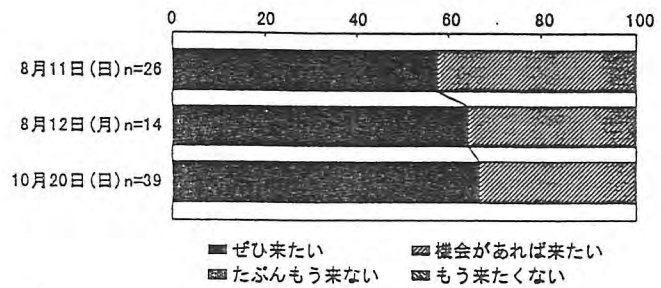


図-7 再来訪の希望(ニツ森)

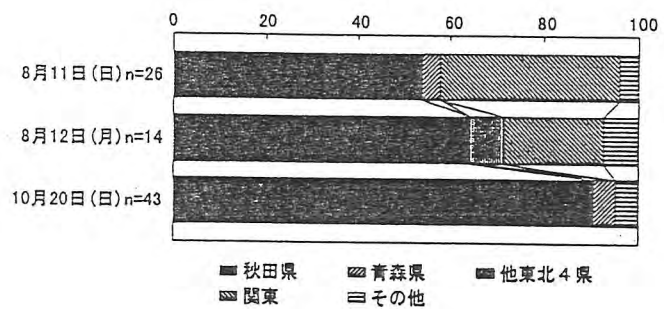


図-8 来訪者の居住地(ニツ森)

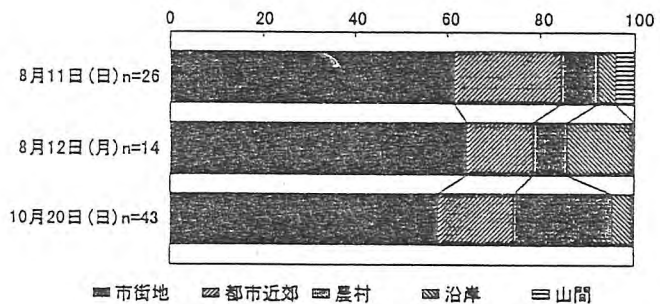


図-9 来訪者の居住環境(ニツ森)

白神山地が森林生態系保護地域指定や世界遺産登録を受ける以前からある程度知名度のあった所であり、そのような箇所が現在も来訪者の移動ルートの核になっていることを示すものです。また、一部に暗門の滝など青森側との重複訪問の例がみられ、広域にまたがる周遊の形態もあることをうかがわせました。

また、二ツ森への来訪は、地元の市街地及び都市近郊に住む、ふだんあまり森林を訪れることのない者が、自家用車を使用した日帰り日程で、白神山地(世界遺産)をみたり、ブナ林を歩いたり、森林浴をするために、初めてあるいは数回目に白神山地を訪れ、満足し、再び訪れることを希望している形に代表されることが明らかになりました。原生的なブナ林内を歩行する条件のない二ツ森に、ブナ原生林に象徴される白神山地(世界遺産)をみたり、ブナ林を歩いたり、森林浴を楽しんだりする事を目的に多数の来訪があることは、注目すべき点です。当該森林の管理上あるいは、来訪者の便益の観点からも今後検討が必要と考えます。

なお、今回の調査時点においては、二ツ森への道路が路肩決壊のために大型車両の通行が規制されており、このことが、二ツ森への来訪者数を少なするほか、交通手段をはじめ来訪内容に影響を与えた可能性があります。

この他、来訪者の動態には少数とはいえ様々な形態も見られることがわかりました。このことは、マスメディアを通じた様々な情報が、社会の多様な層の人々に様々な来訪の動機を与えていることを示唆するものです。今後、さらに調査を重ね、詳細に分析することによって、来訪者の動態が今後どのように変化するか、また、それをどのように誘導してゆくことができるかを明らかにすることができると考えます。